

《担当者名》泉唯史

【概要】

今後、リハビリテーション医療における対象者の高齢化および障害の重複化を展望する際に重要となる呼吸不全あるいは心不全合併例に対する、リハビリテーションの介入の際の効果的アプローチおよびリハビリテーション提供システムの構築・マネジメントに関わるリハビリテーション実践の開発に関する研究方法を探求する。リハビリテーション治療学特講Ⅰにて学修した、国内外の呼吸不全および心不全のリハビリテーションに関する基礎的あるいは臨床的文献レビューを通して、最新の知見を調査し、臨床にて要求される今後の研究の方向性を展望する。

【学修目標】

- ・呼吸不全あるいは心不全合併例に対する臨床課題について効果的な介入法に関して文献レビューを行うことができる。
- ・呼吸不全あるいは心不全合併例に対するリハビリテーションについて効果的な介入法に関してシステマティックな文献レビューを行うことができる。
- ・自らが取り組む研究テーマに関するシステマティックな文献レビューを行うことができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|--------------|---|---|-----|
| 1 | オリエンテーション | 呼吸不全あるいは心不全合併例に対する臨床課題について効果的な介入法に関して文献レビューを行うための説明を行う。 | 泉唯史 |
| 2 3 15 | 呼吸不全あるいは心不全合併例に対するリハビリテーションについてシステマティックな文献調査とレビュー | 呼吸不全あるいは心不全合併例に対するリハビリテーションについて、有効な評価方法および効果的な介入法に関してシステマティックな文献レビューを行う。自らが取り組む研究テーマに関してシステマティックな文献レビューを行う。 | 泉唯史 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション（50%）、討議状況（50%）で総合評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

講義の中で適宜紹介していく。

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（各講義につき60分）

【実務経験】

泉 唯史（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

急性期病院および大学での臨床・教育・研究の実践経験に基づいて、臨床課題の病態解釈およびリハビリテーション、研究課題や研究計画について、文献調査とプレゼンテーションに基づいてディスカッションを行います。